

大なる町の発展とその変遷 2

さまざまな町の変化

市民の生命の水、琵琶湖疏水

今も私たちの大切な水を運び続けている琵琶湖疏水。明治23年に第1疏水が完工して琵琶湖の水が京都に導かれました。上段左の写真は、洛東高校と安祥寺のすぐ南側を流れる昭和40年の疏水。上段右は、同時期に撮影された日ノ岡堤谷町付近の疏水に架かる日本最初の鉄筋コンクリート橋です。



昭和40年
(御陵平林町)



昭和40年
(日ノ岡堤谷町)

疏水のトンネル 開通で公園に

昭和44年頃まで、四ノ宮の山裾を迂回していた疏水(中段右)の川筋は埋め立てられ(中段左)、昭和45年に安土と四ノ宮の境の山を貫通する諸羽(もろは)トンネルが完成しました(下段右)。周辺は、現在も公園として、広く区民に利用されています。下段左は平成17年春に撮影した一燈園付近の桜。春には疏水一帯が桜の名所となります。



平成17年
(四ノ宮山町)



昭和43年
(四ノ宮山町)



平成17年
(西から東に見た一燈園の桜)



昭和45年
(四ノ宮新開地)

山科川の改修

山科川と旧安祥寺川の合流点付近。いずれも向かって右が山科川、左が旧安祥寺川。土手や川底の大規模な工事を行い、水害に強くなりました。



昭和45年頃
(勤修寺平田町・勤修寺東金ヶ岡町)



平成17年
(勤修寺公園を南から北へ望む)



昭和42年
(上花山久保町)

交通の大動脈、 新幹線と国道1号



平成17年
(上花山久保町)



平成17年
(西野山裾ノ馬場町)

上は開通間もない頃の国道1号と現在の風景を比較したものです。新幹線と平行し始める上花山久保町付近。左は現在の東海道新幹線(昭和39年開通)と国道1号(昭和42年開通)。

西伸する新十条通

右下の写真は、昭和39年頃の西野山交差点から東方を写したもので、現在その西側に、伏見区深草と結びたぬ稲荷山のトンネル工事が進められています(右上)。



平成17年
(西野山裾ノ上町)



昭和39年頃
(西野山裾ノ上町)

京都築学専門学校(現京都築科大学)

下の3枚の写真のうち上段左は昭和13年の雪の日に撮られた京津国道沿いの正門。昭和7年に左京区から山科に移転しました。上段右は昭和12年の航空写真。下段は昭和10年のキャンパスです。



昭和13年
(御陵中内町)



昭和12年
(御陵中内町)



昭和10年
(御陵中内町)



昭和9年
(西野大手先町)

山麓尋常高等小学校(現山麓小学校)

伝統を感じる校門は明治13年からのもので、門柱をつなぐアーチの真ん中にガス灯がついています。この校門をくぐった児童は、約1万5千人にのぼります。

花山天文台

近代天文学の先駆けになった京都大学の花山天文台(昭和4年完成)、現在は太陽観測の施設として、大学生や高校生などアマチュア研究者の研修の場としても活躍中。



昭和初期
(北花山大峰町)

広がる住宅地

昭和40年頃の京都府庁所全景(左)とその正門(右)。今では周辺の空き地が住宅で埋めつくされました。



昭和40年頃
(東野井ノ上町)



昭和40年頃
(東野井ノ上町)



平成17年
(北花山大峰町)